

第 262 回 都市懇サロ ンレポート	「大宮におけるストリートデザインまちづくり」		
講 師	アーバンデザインセンター大宮 (UDCO) デザインコーディネーター AMP・PAM 主宰 伊藤 孝仁さん	開催日	令和 4 年 7 月 12 日(火) 18 : 00 ~ 20 : 00
講 師 プロフィール	<p>1987 年東京生まれ。2012 年 横浜国立大学大学院 Y-GSA 修了。 乾久美子建築設計事務所を経て 2014 年から 2020 年までトミトアーキテクチャを富永美保と共同主宰。 2020 年より建築設計事務所 AMP/PAM (アンパン) を主宰し、北関東・南東北エリア (埼玉・群馬・福島等) を中心に活動している。大宮ではアーバンデザインセンター大宮 (UDCO) におけるデザインコーディネーターとしての活動や、小さな路面スタンド YEAST (YEAST) の企画・運営など複層的にまちに関わる。現在、東京理科大学・千葉工業大学・前橋工科大学非常勤講師。</p>		
お話の概要	<p>アーバンデザインセンター大宮 (以下 UDCO) では、大宮駅および周辺エリアの都市再生整備にむけたプラットフォーム支援とともに、ウォークアブルなストリートに着目した実践を行っている。その一つである大宮ストリートテラスは、都市の更新事業で生まれる多くの公共空間の利活用を地元事業者とともに行う街路沿道利活用社会実験である。</p> <p>○西通り：区役所新設に伴う道路拡張に向け買収中の道路予定区域を、民有地も併せてマルシェとして活用。</p> <p>○一番街：店舗軒先の道路占用による利活用。UDCO がコーディネート、おおみやストリートテラス@一番街実行委員会が実施。小道具を活用し、屋外テラス席の売り上げを向上。清掃活動を行うことで店舗間のコミュニケーションを向上。</p> <p>○中央通り：緑のネットワークと歩行者回遊。植木産地の地元産業支援やストリートプランツプロジェクトなど、緑化による滞在性の向上。民間による維持管理の継続。また、ストリートマネジメントスクール@大宮では、まちづくりのストリートマネジメントのプロセスを、実践を交えて学ぶことができる。</p>		
意見交換の概要	<p>UDCO の創設のきっかけや組織体系、経営や運営資金などについての意見交換が多く、社会実験の継続およびまちづくりコーディネートを運営維持する方法について関心が高いようであった。関係者を巻き込むコツは、一点の業種にフォーカスし過ぎないこと。社会実験を継続していくにはサポートがなくても運営が成り立つプラットフォームを確立しノウハウを共有すること。講義で紹介しきれなかった情報もホームページで UDCO レポートとして紹介している。</p>		
記録者のひとこと	<p>公共空間利活用からのまちづくりに、民間の地元事業者を上手に取り込んでコーディネートをしていく手腕は、非常に興味深いものがあった。今後の維持継続について、ぜひその状況を見守って行きたいと感じた。</p> <p style="text-align: right;">《都市懇サロン運営部会 委員 関口貴則記入》</p>		